



中小企業よ、元気を出せ！

財中小企業総合研究所 主席研究員 坂 東 輝 夫

最近、中小企業に元気がないのでは
ないか。これだけ不況が長期化して、しかもまだ出口が見えそうにないのだから、元気を失っても当然だろう。とはいえ、あまりに元気をなくしてしまうのはいかがなものだろうか。

一国の大黒柱である中小企業が活気をなくしてしまったとしたら、その国の行く末は危ない。今年（2003年版）の中小企業白書は中小企業の活力を持ち上げて、盛んに中小企業を元気づけようとしているが、それも無理あるまい。

明らかになった2003年3月期の決算によると、大企業（上場企業）の収益はV字型の回復を果たしたらしい。しかも、2004年3月期も増益の見通しだという。中小企業とはえらい差である。大企業の場合、大胆なリストラと海外市場の開拓が増益の主因だと言われる。とするならば、これまでの大企業のリストラは随分甘かったということになる。

中小企業はすでに絞りに絞られている状態だから、これ以上に絞りようがないだろう。V字型回復するような余裕は残っていないのではないかと。さらに大企業

のように、海外市場の開拓という手もそれほど自由には使えない。大企業と中小企業で業績に差がついて当然なのかも知れない。これでは、中小企業に元気を求めるのは無理なように思える。

では、中小企業は負けっぱなしで、尾羽打ち枯らしたままかという、必ずしもそうではない。たとえば、中小企業の間で最近持ち上がっている次のような動きを見てみよう。

東京では大田区の中小企業が中心になって水上飛行機を開発しようというプロジェクトが浮上している。すでに研究部会が発足しており、大田区はもちろん、隣接する品川区や全国から約30社の中小企業が参加するという。このプロジェクトには、東大大学院の教授やYS11（国産発の旅客機）の開発に係わった技術者らが協力する。

なんのことはない。日本では弱体とされている航空機産業を中小企業が集まって立ち上げようとする試みなのである。参加する中小企業は航空、自動車、造船などの下請けとして長年鍛えた技術に自信のある猛者ばかりである。

1年後をメドに小型無人飛行機を開発、そこで技術を蓄積し、次いで2年ほどかけて4人乗りの水上飛行機を完成させるというスケジュールだという。この通りに進むかどうかは別として、なんとも中小企業の腹の太さを見せつける計画ではないか。

もちろん、参加企業にはこのプロジェクトを通して下請けからの脱皮を図りたいという思惑がある。しかし、工場数の減少で嘆く地域の中小企業から、このような大胆なプロジェクトが飛び出すとは、中小企業の元気の良さはまだ残っているとと言えるのではないか。

もう一つ、やはり中小企業の元気良さを示す事例を紹介しよう。こちらは大田区の中小企業に関連するが、同区をはじめ神奈川県京浜臨海部に立地する中小企業らが集まって、宇宙関連部品を製造しようとする動きである。こちらのプロジェクトには宇宙開発事業団(NASDA)が協力するというから、かなり腰が入っている。

計画によると、NASDAからロケットや人工衛星に搭載するICや、エンジンの軸受け部分などを受注するというが、早くも腕に自慢の30社が参加を表明しているらしい。最終的には、50社くらいの連携組織を考えているというが、こちらも宇宙関連という最先端産業を中小企業の手中に納めようとしているのだから、中小企業の元気の良さを示していると言えるだろう。

宇宙関連といえば、大田区と並ぶ中小

企業の集積地、東大阪市でも人工衛星を飛ばそうとする動きが起こっている。加工技術に自信のある中小企業が集まっている共同作業だが、事例としてはこちらの方が先行してる。もっとも、中小企業の手がけるものだから人工衛星も小型になるが、それでも一辺50センチの立方体で、重さは20~50キロになるという。

計画では、2005年末までにH2Aロケットで宇宙に打ち上げる予定だが、その構想の雄大さにまず驚く。中小企業だからといって、決してチマチマしたところがない。それでいて、人工衛星の開発は終わりではなく、打ち上げ後のビジネスとして衛星を使ったソフトビジネスを想定するしたたかさも持っている。

期せずして、東西の中小企業の間で起こっているこれらの動きを見ると、どっこい、中小企業の元気ぶりは健在のように思える。これら3地区の中小企業はいずれも、脱下請けの突破口として航空産業や宇宙産業を考えているのだが、口に唱えるのは「宇宙産業や航空産業をそれぞれの地区の地場産業にしたい」ということだ。その意気込みがいい。

確かに、地場産業とは明治・大正の古い産業を引きずることではないのかも知れない。21世紀の地場産業として、航空や宇宙関連の産業が誕生してもおかしくない。やはり、中小企業は元気な方がいい。中小企業が元気だと、夢を描ける。足元の景気の悪さにとらわれず、元気な中小企業に元気を分けてもらおう。